



DL4 Delay Modeler

取扱説明書



注 意

感電の恐れあり
キャビネットをあけるな



警告：火災や感電の原因になりますので分解・改造は厳禁。修理・調整は販売店にご依頼ください。

警告：火災や感電の原因になりますので本機を雨や水がかかるところには設置しないでください。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

本書の記載について:

Line 6 及び M9 は、Line 6 社の登録商標です。このマニュアルに掲載されている写真、イメージ、登録商標、アーティスト名はそれぞれの所有者の権利に基づくものであり、このマニュアルでは Line 6 のデジタルモデリングテクノロジーを駆使し、独自に開発された音を適切に表現するためだけに使用されています。また、これらの写真、イメージ、登録商標、アーティスト名の使用において、いかなる協力やエンドースメントも関わるものではありません。

SERIAL NO: _____

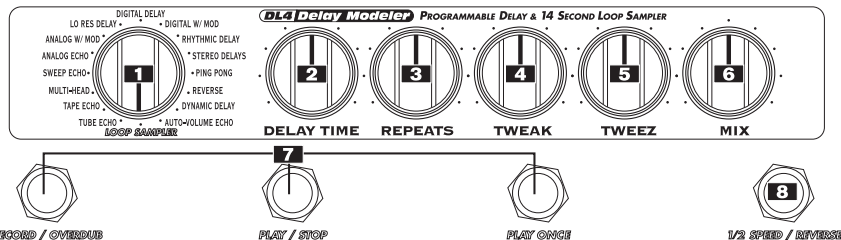


安全上のご注意を良くお読みください。この取扱説明書は大切に保管してください。



- 本書の注意事項を良くお読みください。
- 本書の注意事項を守ってください。
- すべての警告を守ってください。
- すべての指示に従ってください。
- 本機を水気の近くで使用しないでください。
- お手入れは必ず乾いた布で拭いてください。
- 通気口をふさがないようにください。取扱説明書で指定された場所に設置してください。
- 適切にアース接地されたコンセントに接続してください。
- 本機の電源プラグが合わないような場合は、電気工事を依頼し適切なコンセントに交換してください。
- 電源コードの接続部を無理に曲げたり踏んだりしないようにしてください。
- 必ず指定された付属品を使ってください。
- 本機の設置は弊社の推奨するカート、スタンド、ブラケットなどを使用してください。移動式のカートを使うときは転んでけがをしないように注意してください。
- 雷が近づいたり、長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
- パワーサプライのコードやプラグが損傷したとき、内部に異物が入ったり液体がこぼれたとき、本機を落としたときなど、修理が必要な時はサービスセンターに依頼してください。
- 水滴のかかる場所での使用や保管はしないでください。本機の上に花瓶のような液体の入ったものは置かないでください。
- 警告:火災や感電の原因になりますので本機を雨や水のかかるところには設置しないでください。
- 本機はコンセントの近くに設置し、容易にプラグへ手が届くようにしてください。
- パワーサプライのプラグは必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 大音量や不快な音量で長時間使用すると難聴や聴力障害を起こすことがあります。常に安全な音量で使用することを心がけてください。
- 次のような場合には修理が必要です。
- パワーサプライのコードやプラグが損傷したとき
- 本機の内部に異物が入ったり、液体が入ったりしたとき
- 雨天や湿度の高いところで使用し、故障したとき
- 本機が落下したりして損傷したとき
- 製品に異常や故障が生じたとき





1. **モデル・セレクト・ノブ** - 各モデルを選択します。素晴らしいサウンドになるよう、あらかじめプログラムされています。
2. **[DELAY TIME]ノブ** - デレイ・タイムを設定します。詳細は各デレイ・モデルの内容をお読みください。
3. **[REPEATS]ノブ** - デレイのリピート回数を1～無限の間で設定します。詳細は各デレイ・モデルの内容をお読みください。
4. **[TWEAK]ノブ** - 選択したモデルによって様々な機能をコントロールします。詳細は各デレイ・モデルの内容をお読みください。
5. **[TWEEZ]ノブ** - 選択したモデルによって様々な機能をコントロールします。詳細は各デレイ・モデルの内容をお読みください。
6. **[MIX]ノブ** - ドライ(エフェクトのかかっていない)信号とエフェクトのかかった信号のミックスバランスを調整します。左に回すほどドライ信号の割合が大きくなります。
7. **ストンプ・スイッチ** - 3種類のメモリーから選択するスイッチです(ただしLOOP SAMPLERは除く)。スイッチを踏むと、そこに保存されているサウンドが呼び出されます。メモリーの内容を変更するには、任意のスイッチを3秒間踏み続けます。聴こえているサウンドがそのスイッチに保存され、後で呼び出しができます。
8. **タップ・テンポ・スイッチ** - 演奏中の四分音符のタイミングで数回このスイッチをタップする(叩く)と、デレイ・タイムが演奏曲と同期します。

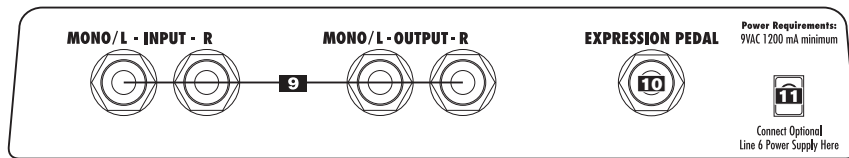
LOOP SAMPLER 選択時のストンプ・スイッチの機能

RECORD/OVERDUB - 1回押すと録音が始まり、録音中にもう1回押すと録音が終了します。録音内容がすぐにループ再生され、オーバーダブ・モードに入ります。オーバーダビングするたびに、すでに録音したサウンドの音量が徐々に小さくなっていきます。

PLAY/STOP - ループを録音したら、このスイッチでループ再生を開始/停止します。停止状態でこのスイッチを踏むと、ループの先頭から再生が始まります。ループ再生中またはオーバーダビング中に押すと、再生またはオーバーダビングが停止します。録音中にこのスイッチを踏むと、録音が停止してループ再生がすぐに始まります。

PLAY ONCE - このスイッチを踏むと1回だけ(ワン・ショット)再生されます。再生中は[PLAY ONCE]インジケータ、[PLAY/STOP]インジケータが点灯します。停止状態でこのスイッチを踏むと、ループは1回再生して停止します。録音中に踏むと、録音が停止してすぐにワン・ショット再生されます。ループ再生中に踏むと、そのループの最後まで再生して停止します。このPLAY ONCEモードがすでにオンの場合、スイッチを踏むとループ再生がまた始まります(これはスタッター効果として使えます)。オーバーダビング中に踏むと、ループの最後まで再生して停止し、オーバーダビングも停止します。

1/2 SPEED/REVERSE - このスイッチは二重機能を持っています。1回だけ踏むと速度が半分になり、2回続けて踏むとリバース再生になります。この両方の機能を組み合わせて使うこともできます。



9. **[INPUT/OUTPUT]端子** - 入出力端子です。左(MONO/L)の入力端子はオン/オフスイッチとしても機能し、ここにケーブルを差し込まないと本体電源はオフになります。電池駆動時に本機を使用していない時は、この端子に何も接続しないでよくと電池が節約できます。
10. **[EXPRESSION PEDAL]端子** - 別売のLINE 6エクスプレッション・ペダルを使用すると、両手で演奏しながら足元でエフェクトのパラメータをコントロールできます。操作は簡単です。[MONO/L INPUT]入力端子からケーブルを外して本機の電源をオフにします。エクスプレッション・ペダルを[EXPRESSION PEDAL]端子に接続し、ペダルのかかとをいっぱいに下ろした状態にします。[MONO/L INPUT]入力端子にもう一度ケーブルを接続し(これで電源がオンになります)、任意のモデル・サウンドを呼び出します。次にエクスプレッション・ペダルのつま先側をいっぱいに下ろして、その状態でのサウンドを各ノブで適宜設定します。ペダルを前後に踏むと、設定した2種類の音が混じって聴こえます。このサウンドをメモリーの1つに保存すると、トゥ・ダウン(つま先を下ろした状態)とヒール・ダウン(かかとを下ろした状態)で聴こえるサウンドのスナップショットが保存されます。エクスプレッション・ペダルでは、モデル・セレクト・ノブ以外のノブをいくつでも使用できます。ただし、エクスプレッション・ペダルを接続していない時にメモリーを呼び出すと、ヒール・ダウン時のサウンドとなります。
11. **電源端子** - 別売のLINE 6 AC電源アダプターをここに接続します。電池駆動の場合は単2電池4個が必要です。寿命の長いアルカリ電池をおすすめします。[MONO/L INPUT]入力端子からケーブルを外すと本機の電源はオフになります。使用していないときは必ずケーブルを外して電池を節約してください。電池残量が少なくなると、ペダル上の4つのインジケータが減滅します。

スイッチング回路によるバイパス (True Bypass & Alternate Bypass)

使用中のメモリーに該当するストンプ・スイッチを踏んでメモリーをオフにして本機をバイパスさせると、内蔵のスイッチング・リレー回路が切り替わります。このリレー回路によって、ギターの信号が入力端子から出力端子へ直接流れ、信号処理もアナログからデジタルへの変換が全く行われずに全回路をバイパスします。これがTrue Bypass (トルー・バイパス) です。一方、バイパス中でも DSP (デジタル信号プロセッサ) が有効なバイパス・モードもあります。これは Alternate Bypass (オルタナート・バイパス) です。このモードでは、たとえばエフェクトをオフにしてディレイを自然にフェードアウトさせることができます。Alternate Bypassに切り替えるには、左から1番目と3番目のストンプ・スイッチを踏んだまま [MONO/L INPUT] 入力端子にギターを接続します。(この端子からケーブルを外すと電源はオフになります)。このモードは、True Bypassに切り替えるまで変わりません。

工場出荷時のプリセットへの初期化

工場出荷時には、本機のメモリーに素晴らしいサウンドの数々がプログラムされています。ご自分のカスタム・サウンドをメモリーに入れると、このプリセットが上書きされることとなります。そこで、カスタム・サウンドを消去して工場出荷時のプリセットに戻りたい場合は、一番左と一番右のストンプ・スイッチを同時に踏みながら、[MONO/L INPUT] 入力端子にギターを接続します。([INPUT] 端子にケーブルを接続していないと電源はオフになります。)

LINE6 のホームページ (www.line6.com) で最新情報を!

LINE6 のホームページでは、お使いの DL4 Delay Modeler についてのいろいろな情報をご紹介します。また、オンラインのディスカッション・グループに参加したり、www.line6.jp/Support/ で DL4 Delay Modeler 取扱説明書の最新版をダウンロードすることもできます。製品登録はオンラインで、または同梱の製品登録カードに必要事項を書き込み郵送してください。製品登録することで、今後万一何らかの問題が生じた時に保証サービスを受けられるだけでなく、キャンペーン応募や特典を受けることができます。

TUBE ECHO (チューブ・エコー：*Maestro[®] EP-1 をモデリング)

クラシックなエフェクター、1963年のMaestro EP-1はEchoplexシリーズの最初の製品で、シカゴのハリス・テラーが製作しました。Maestroの広告でもうたわれていたように、Echoplexの「特殊効果は、巧みなハイスピード・リバーブからドキドキ胸いっぱいのエコーまでを網羅」しています。Echoplexの主な特長は、1/4インチ・テープをループさせた特製カートリッジを使用し、テープが録音ヘッドと再生ヘッド上を通過する仕組みになっています。ストンプ・ボックス・モデラーのTUBE ECHOはクラシックなEchoplexのサウンドに2.5秒まで可変のディレイ・タイムを加えています。[TWEAK]ノブでテープのワウとフラッターを調節します。[TWEEZ]ノブで「ドライブ」、いわゆる真空管回路とテープのサチュレーションが作り出すディストーションの強弱、を調整します



TAPE ECHO (テープ・エコー：*Maestro[®] EP-3 をモデリング)

真空管を使用したEP-1とEP-2の次に、マエストロはサウンドエレクトロニクスとして真空管の代わりにトランジスターを使ったソリッド・ステートのEP-3を発売しました。機構上は1/4インチのループテープも含めてオリジナルのEchoplexと同じですが、EP-1にあった真空管によるディストーションはありません。EP-3は70年代、数々の傑作の誕生に貢献しました。エディー・ヴァン・ヘイレンやジミー・ペイジらもEP-3を愛用しました。EP-1をモデルにしたTUBE ECHOはワウ・フラッター、ディストーションのコントロールがありますが、TAPE ECHOでは歪みを多少抑えたテープ・サウンドを再現し、トーンを調節できるようになっています。[TWEAK]ノブで低域を調節します。[TWEEZ]ノブで高域を調節します。



MULTI-HEAD (マルチヘッド：*Roland[®] RE-101 Space Echo をモデリング)

Space Echoはエフェクター市場に進出したローランドの最初の製品でした。Echoplexのような可動再生ヘッドの代わりに、複数の静止ヘッドを搭載していました。これらのヘッドを切り替えることでディレイ・タイムを変え、さらにモーターの速度コントロールでディレイ・タイムを微調整しました。このエフェクターの面白い点は、複数のヘッドで同時再生するとマルチ・タップ・ディレイ効果が得られたことです。[TWEAK]ノブと[TWEEZ]ノブでテープヘッドの組み合わせを選択することができます。[TWEAK]ノブでヘッド1と2をオン/オフします。[TWEAK]ノブでヘッド3と4をオン/オフします。



SWEEP ECHO (スウィープ・エコー)

これはLine 6のオリジナルモデルです。EP-1テープ・ディレイのエミュレーションを基本として、ディレイ・リピートにスウィープ・フィルターをかけ、ディレイのトーンを調整できるユニークでクリエイティブなモデルを作りました。[TWEAK]ノブでスウィープ速度を調節します。[TWEEZ]ノブでスウィープ深さを調節します。これらのノブを使って、オリジナル・サウンドの可能性を追求してください。別売のLine6 エクスプレッション・ペダルで、ヒール・ダウン時の変調のない状態([TWEEZ]が最小値)から、ペダルをいっばいに踏んだトーン・ダウンの変調をいっばいにかけた状態までをコントロールすれば、ギターソロでスウィープ・エコーのスウィープ・パートが演奏できます。



ANALOG ECHO (アナログ・エコー：*Boss® DM-2 をモデリング)

DM-2のようなアナログ・エコーは、それ以前に使われていたテープ・エコーを改善し「バケツ式」電子回路を採用したことで、ギタリストにとってテープによるディレイよりも信頼性のあるエコー・ユニットでした。アナログ・ディレイの好まれる点は、暖かく歪んだトーンを生むこと、また創造的なサウンドにピッタリ、という点です。たとえば「DELAY TIME」を12時の位置に設定し、[REPEAT]ノブを最大に上げてギターを弾くと、ディレイ回路が「オーバーロード」状態になります。ここで[DELAY TIME]ノブを速く回すと、未来のレーシングカーが内破するようなサウンドが得られます。[TWEAK]ノブで低域を調節します。[TWEEZ]ノブで高域を調節します。



Analog Echo w/ Mod (モジュレーション付アナログ・エコー：*Electro-Harmonix® Deluxe Memory Man. をモデリング)

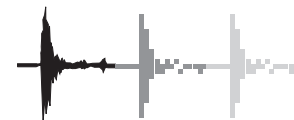
このペダルは他のアナログ・エコーの「バケツ式」電子回路を使用し、これにコーラス回路を追加しています。このアジャスタブル・コーラスはエコーのみにかかり、ダイレクト音には影響しません。暖かく歪んだトーン、寄せては返すエコーで人気のあるこのペダルは多くのギタリストにとって大事なツールになり、U2の最初のアルバムではギター・サウンドの中核となりました。Deluxe Memorymanの「デラックスな」特長は、ディレイ・タイムが500ミリ秒に延びたことです。Echo Proのアナログ・エコーではディレイ・タイムは2.5秒というオマケを付けて、このクラシックなMemorymanのトーンをエミュレートしています。[TWEAK]ノブで変調の速度を調節します。[TWEEZ]ノブで変調の深さを調節します。



LO RES DELAY (ロー・レゾリューション・ディレイ)

80年代初期に登場した最初のデジタル・ディレイがモデルです。このペダルとラックは当時の先端デジタル技術を利用し、更に長いディレイ・タイムを提供しました。Line6 Delay Modelerの24ビット高分解処理などとは異なり、このような初期のデジタル製品の分解能はわずか8ビットでした。分解能が低いと、ユニークなグランジサウンドなど、探し求めているノイズが生み出されることもあります。初期モデルのデジタル・サンプラーがモダン・インダストリアル、エレクトロニカなどのサウンドで時々使用されて、このような効果を生んでいます。[TWEAK]ノブでトーンを調節します。[TWEEZ]ノブでデジタル分解能を24ビット～6ビットの範囲で調節します。

TRACK 2



DIGITAL DELAY (デジタル・ディレイ)

低域、高域のトーン・コントロールを持つデジタル・ディレイです。Line6 ストンプ・ボックス・モデラー・シリーズの24ビット処理とステレオ・オーディオ仕様により、デジタル・ディレイとしては最高位を誇っています。[TWEAK]ノブで低域を調節します。[TWEEZ]ノブで高域を調節します。

TRACK 2

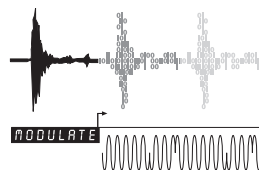


*このマニュアルに掲載されている製品名は該当所有者の商標であり、Line6社との関わりはありません。製品名、説明内容、写真は、本機のサウンドモデル開発中に研究対象となった製品を説明するためにのみ使用しています。Boss®はRoland Corp.の登録商標です。Electro-Harmonix®はNew Sensor Corp.の登録商標です。

DIGITAL DELAY W/MOD (モジュレーション付デジタル・ディレイ)

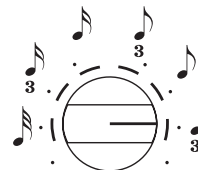
デジタル・ディレイにコーラス・エフェクトを追加する時に最適です。MODのコーラスと同様、このモジュレーションもディレイのリピート部分にのみ掛かり、ダイレクト音には影響を与えません。[TWEAK]ノブで変調の速度を調節します。[TWEETZ]ノブで変調の深さを調節します。

TRACK 2



Rhythmic Delay (リズミック・ディレイ)

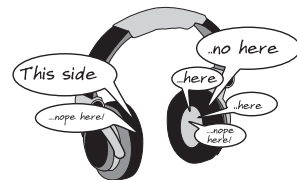
曲中にあるリズムを手軽にキープすることができるディレイです。以下のように使います。タップ・テンポ・スイッチを4分音符の長さで叩きます。次に DELAY TIME ノブでその音符を好みのディレイ・タイムに設定します。ストンプ・ボックス・モデラーならば4分音符を叩いておいて、そのディレイ・タイムを8分音符の3連符に変えたり、または他の5種類の音符に設定することもできます。たとえば、ある曲の一部に8分音符のディレイが、またある部分では8分音符の3連符のディレイが必要であるとしてます。別売のエクスペッション・ペダルを使って DELAY TIME ノブのリズム設定をコントロールすれば、ペダルを操作して曲に合ったタイミングを選ぶことができます。[TWEAK]ノブで変調の速度を調節します。[TWEETZ]ノブで変調の深さを調節します。



DELAY TIME

STEREO DELAYS (ステレオ・ディレイ)

U2のヒット曲「Where the Streets Have No Name」の中で、あのグルーヴィーなサウンドをThe Edgeはどうやって作ったのでしょうか？ 正解はステレオ・ディレイです。これこそが、U2の数多くの曲だけでなく「ビッグL.A.ソロ」とよく言われるサウンドの隠し味となっています。左右チャンネルに入力された信号はステレオ状態を保ったまま別々に処理されて、左右それぞれの出力に送られます。(モノ・イン/アウトの接続では、左右のディレイが左のモノ・アウトに送られます)。**[DELAY TIME]**ノブで左チャンネルのディレイ・タイムを設定します。**[REPEATS]**ノブで左チャンネルのリピート回数を設定します。**[TWEAK]**ノブで右チャンネルのディレイ・タイムを設定します。**[TWEETZE]**ノブで右チャンネルのリピート回数を設定します。



PING PONG (ピンポン)

ピンポン・ディレイは、2つのディレイ・チャンネルが互いに交差して相手のチャンネルにそれぞれ出力される、というピンポンゲームのように前後に移動する、ディレイの2つのセパレート・チャンネルです。**[DELAY TIME]**ノブで左チャンネルのディレイ・タイムを、**[TWEAK]**ノブで右チャンネルのディレイ・タイムを、メイン・ディレイ・タイムのパーセント値で設定します。トリッキーなサウンドになりませんか？ つまり、**[DELAY TIME]**ノブでロング・ディレイ・タイムを、**[TWEAK]**ノブでショート・ディレイ・タイムを設定します。**[TWEAK]**ノブを12時の位置にすると、左右のディレイが均等になります。**[TWEETZ]**ノブでステレオの広がりを調節します(最小で信号はモノになります)。



REVERSE (リバース)

！にうよのズルトービヤスクリドンへ・ミジ・・・(後ろから読んで！)。新しいリバース・ディレイでタイムトラベルしてみよう。[DELAY TIME] ノブで設定したディレイ (最長 1.25 秒) が弾いた音にかかって、逆に演奏されます。このエフェクトをうまく使うには、リバース再生を無視してとにかくレガートのフレーズを弾いてみます。レガートで長い持続音を弾くほど面白いフレーズになって返ってきます。REVERSEを使う時は、[MIX] ノブを右いっぱい (100% ウェット) に回してリバース・サウンドだけが聞こえるようにすると、逆さまのギターソングがすぐに聞けます。[TWEAK] ノブで変調の速度を調節します。[TWEEZ] ノブで変調の深さを調節します。



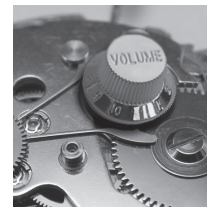
DYNAMIC DELAY (ダイナミック・ディレイ : *T.C. Electronic® 2290 をモデリング)

TC エレクトロニクスの 2290 Dynamic Digital Delay で有名になったエフェクトです。ディレイ・エフェクトのエコーを「賢く」調整するボリューム・コントロールのようなもので、弦をどれだけ強く弾くかというダイナミクスによって、ディレイ・エコーのラウドネスを設定します。演奏中はエコーの中に演奏音が埋もれてしまわないよう、ダイナミック・ディレイはエコーのボリュームを抑えます。しかし、演奏を一時止めると、リピート部分のボリュームが上がりエコーがよく聞こえるようになります。[TWEAK] ノブでスレッシュホールドを調節し、自動ボリューム・コントロールがオフになりエコーがフルボリュームになるブレイクポイントを設定します。[TWEEZ] ノブでリピートのダッキング・レベルを調節します。値が大きいほどダッキングの量、つまり抑えるレベルも大きくなります。



AUTO-VOLUME ECHO (オート・ボリューム・エコー)

2つのエフェクトが1つになったモデルです。オート・ボリュームの部分は、シンセサイザーのエンベロープ・ジェネレーターによるアタック・タイムのように、ボリュームがフェード・インして次第に膨らんでいくエフェクトです。ギターで1音弾いたすぐ後にボリューム・ノブをゼロから急に上げた時のような、弦楽器のエフェクトに使用できます。もう1つのエフェクトは、テープ風のワウ・フラッターのモジュレーションがかかったエコーです。[TWEAK] ノブで変調の深さを設定します。[TWEEZ] ノブでオート・ボリューム・スウェルの立ち上がり時間を設定します。



LOOP SAMPLER (ループ・サンプラー)

ループ・サンプラーを使用中はノブとスイッチが専用の動きをし、トゥルー・バイパスも動きません。ループ・サンプラーはここで設定したノブのポジションを記憶しているので、次に使用するときには設定がリコールされます。最長 14 秒のループが得られます (ハーフ・スピードの時は 28 秒になります!) エコー・ユニットがループ・サンプラーの前に備えてあります。エコー・ユニットがループ・サンプラーの前にあるため、サンプルする際、エコーもレコードされます。[DELAY TIME] でプレ・ループ・エコー・タイムを設定します。[REPEATS] ノブでプレ・ループ・エコーのリPEAT回数を設定します。[TWEAK] ノブでプレ・ループ・エコーのモジュレーションレベルを設定します。[TWEEZ] ノブでプレ・ループ・エコーのボリュームを設定します。[MIX] ノブでループ・サンプラーの再生ボリュームを設定します。

ループ・サンプラーの使い方

[TWEEZ] ノブを最小にしてプレ・ループ・エコーをオフにし、[MIX] レベルを中央にセットします。リズムギターのパートを演奏します。ノリのあるリズムになってきたら、[RECORD/OVERDUB] スイッチをダウンビートにのって踏み、2 小節分のリズムを録音し、今度は [PLAY/STOP] スイッチを 3 小節目のダウンビートで踏みます。

次にリードギターをオーバーダブしてみましょう。[TWEEZ] を上げてリードにエコーをかける際、[DELAY TIME] と [REPEATS] でエコーを調節し、[TWEAK] でエコーにモジュレーションをかけます。[MIX] でループ再生の音量を必要に応じ低くできます。ループを再生していない場合は、[PLAY/STOP] スイッチでループ再生を始め、録音する前にフィーリングをつかみます。準備ができたなら、ループ再生に合わせ [RECORD/OVERDUB] スイッチを踏み、2 小節のリードギターをワイルドに演奏します。オーバーダブを続け、最初のループの後で 2 番目のレイヤーを録音すればツインソロになります。2 小節の終わりで [RECORD/OVERDUB] スイッチを踏んでオーバーダブをオフにすると、リズムとソロギターの入ったループが再生されます。

[1/2 SPEED/REVERSE] スイッチを 1 回踏むと全体がハーフ・スピードになります。次に 2 回続けて踏むと、ハーフ・スピードのまま逆方向に再生されます。ループを再生させながら [RECORD/OVERDUB] スイッチを踏んで、更にギターを重ねます。[RECORD/OVERDUB] スイッチをもう一度踏んでオーバーダビングを停止し、全体を再生してから [1/2 SPEED/REVERSE] スイッチを 2 回続けて踏みます。これでループが正常方向に再生され、最後に録音したパートは逆方向に再生されます。次に、[1/2 SPEED/REVERSE] スイッチを 1 回踏んでハーフ・スピードをオフにします。わずか 30 分でこれだけのことができるのですから驚きではありませんか。

それでもまだ物足りない方は・・・

ループ・サンプラーが提供するサウンドを録音し、新しいループ・サンプリングを試してみましょう。

停止状態から [1/2 SPEED/REVERSE] ボタンを 1 回踏んで点灯させ、ハーフ・スピードに設定します。[DELAY TIME]、[REPEATS]、[TWEEZ] スイッチをすべて 12 時の位置に設定します。左手でギターの弦を抑えてミュートさせ、右の人さし指で低域の弦を素早く叩きます。[RECORD/OVERDUB] スイッチを踏んでこの音のある程度録音してから、[PLAY/STOP] スイッチを踏んで録音を終え、再生を始めます。[1/2 SPEED/REVERSE] スイッチを踏んでハーフ・スピードをオフにすると、このループが倍の速さで再生されます。さらに 2 回続けて踏みリバース音にします。ループを再生しながら [RECORD/OVERDUB] スイッチを踏んでオーバーダビングを始めます。低音の E 弦をピックでなぞるようにスライドさせ、続けてすぐにアタック気味で伸びのある音を弾きます。[RECORD/OVERDUB] スイッチをもう一度踏んでオーバーダビングを停止し、ループ再生を続けます。次に [1/2 SPEED/REVERSE] スイッチを 2 回続けて踏みます。さあ、気に入りましたか？